

# 日本における自転車ロードレース『ツアー・オブ・ジャパン』の歴史 The history of the bicycle road race in Japan, about “Tour of Japan”

村山吾郎 Murayama Goro

## 1. 自転車ロードレースと「ステージレース」とは？

当センターでは、科学技術館 2 階 F 室で「自転車広場」という展示室を設け、実車の展示を通して自転車の発達と技術の変遷を来館者の皆様にご覧頂いている。

※科学技術館ホームページ <http://www.jsf.or.jp/>

※当センターホームページ展示室紹介 [http://cycle-info.bpaj.or.jp/bcc-info/bcc\\_floor.html](http://cycle-info.bpaj.or.jp/bcc-info/bcc_floor.html)

本稿では、当会が大会運営事務局を務める自転車ロードレース『ツアー・オブ・ジャパン』の歴史と魅力をご紹介するにあたり、まずは国内自転車競技を統括する(財)日本自転車競技連盟のホームページから、自転車スポーツの歴史とロードレースについて引用してひも解いてみたい。

※日本自転車競技連盟ホームページ「自転車と自転車競技の歴史」[http://jcf.or.jp/?page\\_id=6069](http://jcf.or.jp/?page_id=6069)

### 自転車の歴史

自転車は 18 世紀末ごろに発明されたと言われています。当初は前後 2 つの車輪をつけたフレームにまたがり、足で地面を蹴って進むという遊び道具でした。1813 年に前輪の方向を変えるステアリングがついて実用性が高まり(※筆者注: 一般的には 1817 年にドイツでドライス男爵が考案し、翌年特許を取得した「ドライジーネ」が自転車の元祖であると言われている)、19 世紀中ごろには簡単な駆動システムが考えられました。前後の車輪が同じ大きさで、後輪をチェーンによって動かして進むという現在とほぼ同じ形となったのは 19 世紀末です。明治初頭だったこの時期に、日本にも自転車が輸入され始め、すぐに国産化。鉄砲鍛冶だった現在の宮田工業が自転車の生産を始めたのが 1890 年でした。

1886 年には帝国大学に自転車会が発足しましたが、高価なものだったので上流階級の趣味であったり、スポーツの道具として用いられるのが主でした。しかし 1892 年に逓信省が電報配達時に使用するようになり、第一次世界大戦を機会に量産化されるようになりました。その後、第一次世界大戦後まで、自転車は運搬具や交通手段として用いられ、その方向に進化していきました。しかし 1960 年代以降、都市交通などの普及によって実用性が薄れ、欧米と同様にスポーツ機材としての活用法が主流になっています。

### 自転車レースの歴史

自転車レースは自転車が発明されてすぐに始まり、徐々に長距離化していきました。1890 年代には現在の形態のレースが始まり、1903 年にはツール・ド・フランスがスタートしました。当初は 1 日に 500km 以上も走る区間があるなど耐久レースとして争われましたが、自転車製造技術の進歩や舗装路の普及もあって、スピードを競うスポーツへと変わっていきました。

トラック競技場を使って戦う短・中距離も 1893 年には世界選手権を開催されるまでになりましたが、当時は単純に速さを競うだけのものでした。しかし走路や機材の改良によってスピードが高まると、走り方も変わってきました。ロードレースで時速 40km、短距離の瞬間速度になると 70km にもなる自転車競技では、空気抵抗の存在が大きく影響し、前走者の背後につくドラフティングが戦術として利用されるようになったのです。それともなると、さらにスリリングな戦いになるようにレースが複雑になり、それに対応した規則が生まれ、また現在にいたるまで規則の改正が続いています。

### 日本における自転車競技の歴史

明治 19 年 (1886 年) に帝国大学 (後の東京大学) の教員たちが運動をする目的で「自転車会」を設立しましたが、これが日本人によって作られたおそらく最初の自転車クラブと言われています。明治 26 年 (1893 年) には、三菱財閥の岩崎氏らが参加して「日本輪友会」という本格的な自転車クラブも設立されました。そして明治 31 年 (1898 年) に上野・不忍池で大日本双輪倶楽部が主催した日本人による初の自転車競走会が開かれることになったのです。

当時、自転車はまだ高価なもので、そのため貴族や財閥がスポンサーとなって選手を育成。選手は商社の宣伝用ジャージを着て走り、日当を受け取るというプロレーサーでした。今から 100 年も前に現在のツール・ド・フランスにそっくりなイベントが日本でも行われていたというわけです。さら

に20世紀当初に行われた長距離レースは、新聞社が拡販のために主催したというも、ヨーロッパの伝統レースとまったく同じなのです。

自転車競技はその後、1934年の日本サイクル競技連盟（後の日本アマチュア自転車競技連盟）の創立によって純粋なアマチュアスポーツとなり、多くのレースが開催されました。さらに第二次世界大戦後は復興の波に乗り、次々と大規模なレースが誕生。しかしこれらは交通状況の悪化とともに次第に縮小化されていきました。

第二次世界大戦前に誕生した初代・日本自転車競技連盟は、戦局の悪化とともにU.C.I.からの除名処分を受けましたが、戦後すぐに再加盟を認められました。その後、国際的なプロとアマ組織の分裂によって、日本プロフェッショナル自転車競技連盟と日本アマチュア自転車競技連盟に分化。前者がプロ部門の国際組織F.I.C.P.に、後者がオリンピックを頂点に持つアマ部門のF.I.A.C.に所属して活動を始めました。そしてプロとアマという垣根が全スポーツ的に取り払われていくなかで、国際組織もU.C.I.（※筆者注：『国際自転車競技連合』）に一本化され、日本の2団体も1995年にプロ/アマ統合の組織として今日の日本自転車競技連盟となったわけです。

引き続き(財)日本自転車競技連盟ホームページ「競技種目」[http://jcf.or.jp/?page\\_id=5571](http://jcf.or.jp/?page_id=5571)から、「ロードレース」と「ステージレース」を引用する。

### ロードレース

ロードレースとは、ツール・ド・フランスなどで知られる一般道を使ったレース。全選手が一斉にスタートして、着順を競う。空気抵抗の存在があるため、単独で逃げるのは相当の体力を消耗するため、各チームや各国は組織プレーを展開して、そのコースを得意とするエースを勝たせるために緻密なプレーを見せる。アトランタ（※筆者注：1996年）から、オリンピックにもツール・ド・フランスで活躍するトッププロも参加するようになった。

### ステージレース

ロード・レースはさらに、1日だけで行われるワンデー・レースと、数日間かけて競われるステージ・レースに区分される。ツール・ド・フランスに代表されるステージ・レースは、1日ごとに開催されるレースの所要時間を累計して最も少なかった選手を総合優勝者とする。（※筆者注：ツール・ド・フランスなどのステージレースは、チームで戦うのが基本である）

このステージレースの世界最高峰が2013年6月29日に100回大会を迎える『ツール・ド・フランス』である。（株）八重洲出版よりヤエスメディアムック387『ツール・ド・フランス100回



グレートヒストリー~祭りの日々~』【セルジュ・ラジェ著／宮本あさか訳】という主催者公認のヒストリーブックの翻訳版が2013年2月22日に発売された(この本は日本を含む世界9ヶ国で刊行されるという)。

著者のセルジュ・ラジェ氏は自転車レースの報道に携わってきた記者で、ツールの図版収集家としても知られる人物。1903年から2011年までを7つの時代に分けてツール史を詳述している。このたび同社『CICLISSIMO(チクリッシモ)』誌・宮内忍編集長より、当センター情報室宛1冊寄贈頂いたのでさっそく開架図書に配架。ご興味のある方はぜひご来館頂きご一読頂ければ幸いです。

自転車競技の歴史は長く、1896年にアテネで第1回オリンピックが開催された時からの正式競技であり、ツール・ド・フランスも初期は現在の大会形式とは異なるものの1903年から歴史を刻んでいる。

※大会の歴史は、フリー百科事典「ウィキペディア」『ツール・ド・フランス』でも概観頂ける。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%89%E3%83%BB%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9>

## 2. ツアー・オブ・ジャパンの前身『国際サイクルロードレース』

我が国における自転車ロードレース(ステージレース)『ツアー・オブ・ジャパン』は、1996年5月に第1回大会が開催され、2013年に第16回大会を迎えるが、その前身は1982年から1995年まで開催されていた『国際サイクルロードレース』という大会である。

この大会誕生のいきさつについて、当会の20年史(1971~1991年)より引用してみたい。

その由来は、1980年(昭和55年)11月に、議員立法に基づき『自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律』(通称「自転車基本法」)が成立したのを記念して、当会が事務局となって38の公益法人等を構成団体とする『自転車月間推進協議会』を設立(後援省庁：総務庁・警察庁・環境庁・文部省・通商産業省・運輸省・建設省・自治省※いずれも当時)し、同法律が施行された1981年(昭和56年)5月から、毎年5月を『自転車月間』と定めた事が契機である。

当時欧米各国でも自転車活用推進の機運が盛り上がっていたが、1981年5月10日に明治神宮外苑で開催された「自転車月間設定記念中央大会」では、大会副会長として新井茂当会会長が下記の大会宣言を読み上げた。

### 大会宣言

われわれは自転車を利用することが国民生活の利益増進に大きく貢献することを確信し、自転車月間設定の趣旨を実施するため、

- 一、自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場整備に関する法律の明示するところにしたがい、自転車の乗用環境の整備促進に最善の努力を傾注することを誓います。
- 一、自転車乗用者の交通ルールの遵守と乗用マナーの一層の向上をはかることを誓います。

初年度の自転車月間は、中央大会のほか、全国20ヶ所で自転車を中心とするさまざまな催しが開かれたが、1982年(昭和57年)5月に第2回目の自転車月間の最も大きなイベントとして、第1回国際サイクルロードレース大会は5月9日(日)に東京大会が、同16日(日)に大阪大会が開催された。

この大会は、(財)日本アマチュア自転車競技連盟・朝日新聞社・自転車月間推進協議会の三者の共催のため、マスコミの大きな取材陣によって華々しくテレビ・ラジオ・新聞などのマスメディアに取り上げられることになった。しかし、大都市内のメイン道路を利用する、マラソンを始

めとする諸競技は原則として認めないという警察側の方針があったため、協議会の事務局を担当する当会としては、その後毎年開催される大会のたびに、所管の警察署への陳情活動をはじめ、万一の交通事故の発生を防止するための事前準備に、陰の努力を払い続けることになった。

※上記文章・下記写真の引用出典『財団法人・日本自転車普及協会の20年 1971～1991』（1992 当会発行）



ロード・レース女子競走も、年を追って激しい戦いが展開されるようになった。

東京・大阪の繁華街にコースをとるロードレースは、日本のアマチュア選手にとって初めての経験だけに、学生自転車競技連盟、自転車競技実業団体などからの出場希望が多く、大盛況となった。外国からの招待選手の選定については、前年に開催された世界自転車競技選手権大会の出場選手のうちから、成績上位の者を大会事務局に依頼して選んだが、毎年5月といえば、欧米もシーズン中のものであり、遠い極東への出場を望む選手も少なかつたらしく、また、この大会の知名度も行き渡らなかつたので、アメリカ・ニュージーランド・ニュージーランド・ニュージーランドからの来日男子選手は、必ずしも世界水準からみて最優秀選手たちが派遣されてきたとはいえなかつた。

したがって、東京大会では、優勝斉藤博（2時間21分56秒51）以下日本選手陣が上位8位までを占め、9位にタニエル・フランジャー（アメリカ）がやっと顔を出したにすぎなかつた。女子競走では、日本の女子自転車競技者の層がまだうすく、1位シラ・ヤング（アメリカ）1時間9分26秒84、2位ボリン・ストロング（イギリス）、3位に呼声の高かつた日本勢のホープ阿部和香子が1位との差1秒たらずの僅差で2位にゴールした。以下6位までアメリカ・イギリスの選手たちが独占した。

大阪大会では、優勝穂積尚男、2時間11分56秒38、2位滝川一夫、3位にR・キーフェル（アメリカ）が続き、1位から5位までが56秒台の接戦で、雪崩を打ってゴールする激戦となった。

5

国際ロードレースも月間の花形行事

第2回自転車月間の最も大きなイベントとしては、東京・大阪2都市で各男女アマチュア・サイクルロードレースが行われたことであり、以後現在にいたるまで毎年欠かさず開催されている。

第1回国際ロードレース大会は、1982（昭和57）年の自転車月間のイベントとして、5月9日（日）（東京大会）、同月16日（日）（大阪大会）が行われた。東京大会は、男子選手99人（うち外国選手9人）、女子36人（うち外国人選手6人）で、男子競走は東京プリンスホテル北門をスタートし、大井埠頭を15周して芝増上寺山門前をゴールする全長103キロメートル、女子競走は大井埠頭第4公園前をスタート、埠頭5周して男子競走と同じ芝増上寺前にゴールする全長42・4キロメートルのロードレースである。

大阪大会では、堺市臨界センター前をスタート、大阪湾臨界コース1周33・5キロメートルを3周して臨界センター前にゴールする全長100・5キロメートルの男子競走が行

この成績結果を知った国際自転車競技連盟（UCI）は、日本の男子ロードレースの技術水準が意外に高いことを改めて認識したので、翌1983（昭和58）年以降の大会には、世界選手権ロードレース出場選手のうちから、最強の選手を派遣することとしたらしく、以後は招待選手の上位入着が続くようになる。

この国際サイクル・ロードレース大会は、財・日本アマチュア自転車競技連盟、朝日新聞社、自転車月間推進協議会の三者共催のため、マスコミの大きな取材陣によって華々しくテレビ・ラジオ・新聞などのマスメディアに取り上げられることになった。しかし、大都市内のメイン道路を利用する、マラソンをはじめとする諸競技は原則として認めないという警察側の方針があったため、協議会の事務局を担当する自普協としては、この第1回国際ロードレースはいうまでもなく、その後毎年開催される大会のたびに、所管の警察署への陳情活動をはじめ、万一の交通事故の発生を防止するための事前準備に、陰の努力を払い続けることになった。競走中の落車・転倒事故はやむを得ないとしても、沿道に集まる観衆や他の交通機関との事故などが起れば、都市内ロードレースを例外として認められていたものが中断する可能性が高い。第1回大阪大会の自主整備の布陣をみても、高校生、ポイスカウト、関西学生自転車競技連盟などの動員951人、さらに地元警察の協力、朝日新聞社、南海電鉄その他で合計1,672人に達し、東京大会では、日曜日の交通量の少ない大井埠頭の周回コースを含んだため、大阪大会の約半数の警備陣で済んだ

が、以後毎年のコース選定のつど、各地の大会の運営には細心の注意を払って、実施に移されている。

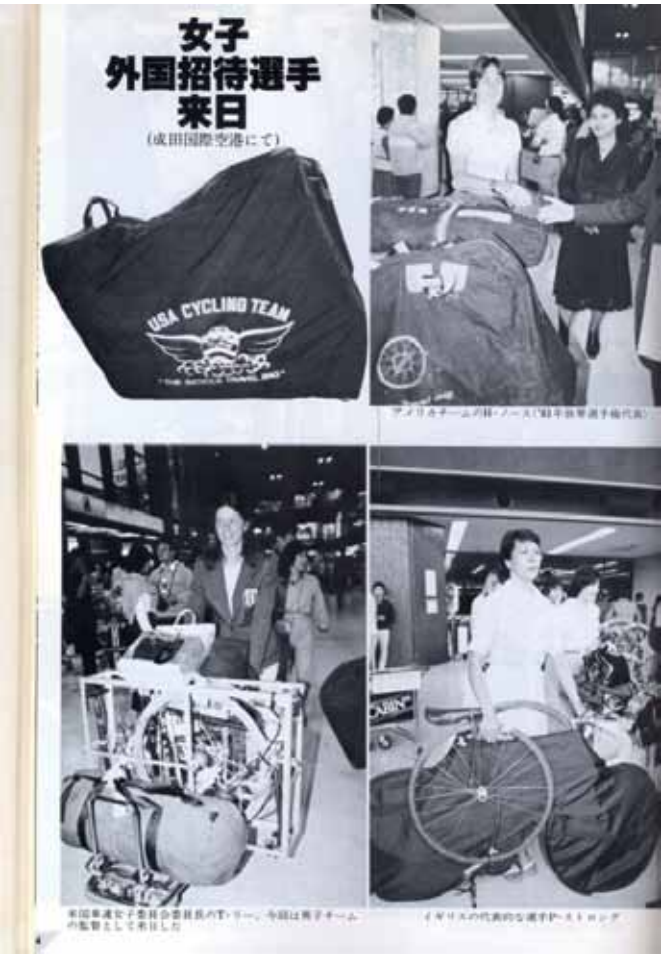
第2回国際ロードレース大会には、外国選手男子14人、女子9人が東京・大阪両大会に出場した。

第3回（1984（昭和59）年）には、欧米6カ国から男女30人の招待選手が来日した。

第4回（1985（昭和60）年）には、10カ国26人の招待選手、第5回からは、東京大会のスタート地点を日比谷シティとし、招待選手数10カ国男女26人、第5回（1986（昭和61）年）も10カ国男女26人、第6回（1987（昭和62）年）には、東京・大阪大会のほか初めて京都大会が加わり、招待選手数10カ国男女24人、第7回（1988（昭和63）年）には、東京・大阪とともに名古屋大会が開催され、招待選手数は11カ国28人であった。









# ロードレース

(男子の部)



男子ロードレースのスタート、10kmの進行～時人が外国選手を先頭に一同となって行く



東京メジャーを回り赤羽橋から日比谷通りへ



めまぐるしくシッパが入れ変わり、勝利の行くよは手数で定まらなくなって来た



後半に暴けて、作戦を胸に極めて走る先頭集団

410

11

# ロードレース

(女子の部)



競技中のいきりスタート、レース前のひととき



スタート直前、スタート直前、スタート直前



スタート直前、スタート直前、スタート直前

# 表彰式



1位 ショートヘア(アメリカ)、2位 ボーデン(オーストラリア)、3位 阿部和香(福岡)



1位 内藤 伸(徳島)、2位 高野正広(甲府)、3位 西条 真(東京都)

### 3. 『ツアー・オブ・ジャパン』(TOJ)の誕生

1995年に第15回国際サイクルロードレース大会が開催された翌1996年、国際自転車競技連合(U.C.I.)公認のナショナルステージレース(注:その国を代表するステージレース)にグレードアップして『ツアー・オブ・ジャパン』が誕生した。 ※引用出典:第1回ツアー・オブ・ジャパン報告書より



順位	選手名	所属	総合時間	タイム差
1	中村大介	日本代表	06:28:00	
2	...	...	...	...
3	...	...	...	...
4	...	...	...	...
5	...	...	...	...
6	...	...	...	...
7	...	...	...	...
8	...	...	...	...
9	...	...	...	...
10	...	...	...	...
11	...	...	...	...
12	...	...	...	...
13	...	...	...	...
14	...	...	...	...
15	...	...	...	...
16	...	...	...	...
17	...	...	...	...
18	...	...	...	...
19	...	...	...	...
20	...	...	...	...
21	...	...	...	...
22	...	...	...	...
23	...	...	...	...
24	...	...	...	...
25	...	...	...	...
26	...	...	...	...
27	...	...	...	...
28	...	...	...	...
29	...	...	...	...
30	...	...	...	...
31	...	...	...	...
32	...	...	...	...
33	...	...	...	...
34	...	...	...	...
35	...	...	...	...
36	...	...	...	...
37	...	...	...	...
38	...	...	...	...
39	...	...	...	...
40	...	...	...	...
41	...	...	...	...
42	...	...	...	...
43	...	...	...	...
44	...	...	...	...
45	...	...	...	...
46	...	...	...	...
47	...	...	...	...
48	...	...	...	...
49	...	...	...	...
50	...	...	...	...
51	...	...	...	...
52	...	...	...	...
53	...	...	...	...
54	...	...	...	...
55	...	...	...	...
56	...	...	...	...
57	...	...	...	...
58	...	...	...	...
59	...	...	...	...
60	...	...	...	...
61	...	...	...	...
62	...	...	...	...
63	...	...	...	...
64	...	...	...	...
65	...	...	...	...
66	...	...	...	...
67	...	...	...	...
68	...	...	...	...
69	...	...	...	...
70	...	...	...	...
71	...	...	...	...
72	...	...	...	...
73	...	...	...	...
74	...	...	...	...
75	...	...	...	...
76	...	...	...	...
77	...	...	...	...
78	...	...	...	...
79	...	...	...	...
80	...	...	...	...
81	...	...	...	...
82	...	...	...	...
83	...	...	...	...
84	...	...	...	...
85	...	...	...	...
86	...	...	...	...
87	...	...	...	...
88	...	...	...	...
89	...	...	...	...
90	...	...	...	...
91	...	...	...	...
92	...	...	...	...
93	...	...	...	...
94	...	...	...	...
95	...	...	...	...
96	...	...	...	...
97	...	...	...	...
98	...	...	...	...
99	...	...	...	...
100	...	...	...	...

この大会では、現在の大会形式になった近代ツール・ド・フランスに、日本人として初出場した今中大介氏が個人総合時間賞で見事第3位を獲得している。



#### 4. 2012年『第15回ツアー・オブ・ジャパン』へ

1982年に第1回国際サイクルロードレース大会が開催されてから15回、そして1996年に第1回ツアー・オブ・ジャパンが開催されて以来、昨年2012年に第15回大会を迎え、

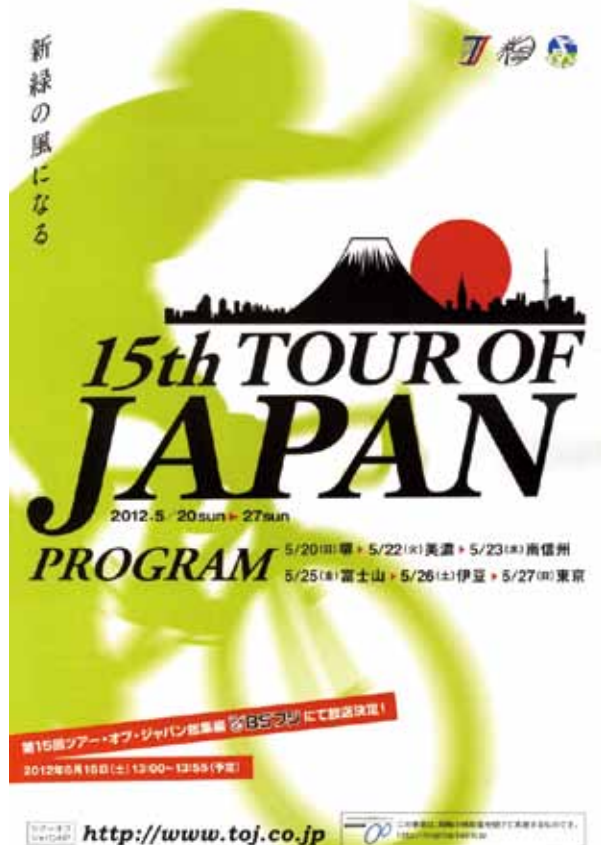
- 5/20(日)大阪 堺 ※堺市公式 HP <https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/sakai/newstage/event/toj.html>
- 5/22(火)岐阜 美濃 ※美濃ステージ公式 facebook <https://www.facebook.com/TOJ.MINO>
- 5/23(水)長野 南信州 ※飯田市公式 HP <http://www.city.iida.lg.jp/toj/>
- 5/25(日)静岡 富士山 ※TOJ 公式 HP より [http://www.toj.co.jp/toj15/stage/04\\_fujisan.html](http://www.toj.co.jp/toj15/stage/04_fujisan.html)
- 5/26(土)静岡 伊豆 ※TOJ 公式 HP より [http://www.toj.co.jp/toj15/stage/05\\_izu.html](http://www.toj.co.jp/toj15/stage/05_izu.html)
- 5/27(日)東京 ※TOJ 公式 HP より [http://www.toj.co.jp/toj15/stage/06\\_tokyo.html](http://www.toj.co.jp/toj15/stage/06_tokyo.html)

以上の6ステージで開催された。

これまでさまざまに大会会場やレース形態の変遷を経ながらも、出場された国内外トップレベルの選手の力走に声援を送って下さった観客の皆様、後援省庁・開催地地方自治体・各都道府県警察・消防・自衛隊を始めとする行政機関等関係者、出場選手とチームや自転車競技連盟・競技役員関係者、多くのご支援を頂いた地域住民の方々や地元企業の皆様、そして長年に渡って大会へ多大なるご支援を頂いたご協賛企業や競輪補助事業で全面的にバックアップして下さっている旧日本自転車振興会・現 JKA 関係者の皆様、競輪選手や競輪ファンと競輪の開催に関わる全ての方々や、会場設営や選手関係者の宿泊輸送手配や報道に携わった全ての方々に、「自転車月間推進協議会」事務局の一員として、心より御礼を申し上げたい。

筆者は1995年(平成7年)4月当会にプロパー職員として就職、幸いにも第15回国際ロード、第1回 TOJ、第10~14回 TOJ のそれぞれに、事務局員の一員として大変貴重で充実した体験をさせて頂いてきた。これからも皆様と共に TOJ という我が国の自転車ロードレース界と自転車スポーツを愛する人々にとって大切な舞台を守り育てて行くことができるよう、もとより筆者は誠に微力ではあるが、一期一会で務めてまいりたいと考えている。

※引用出典: 2012年第15回・ツアー・オブ・ジャパン大会プログラムより







## 5. 結びとして

去る平成 25 年 2 月 18 日(月)に、当会では『自転車セミナーDX』を開催し「日本人がツール・ド・フランスで勝つには」という壮大なテーマでセミナーを開催した。

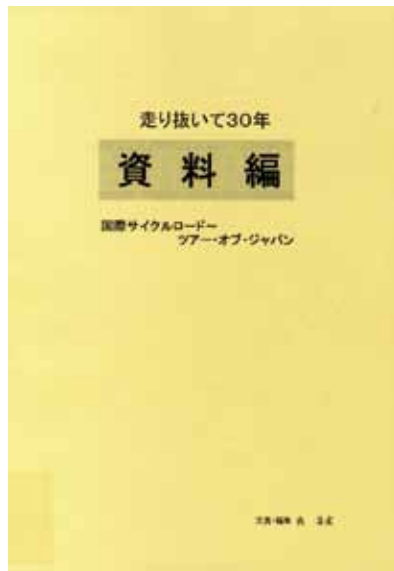
講師は浅田 顕氏(エキップアサダ監督兼代表)と栗村 修氏(宇都宮ブリッツェン監督)、司会はトリアスリートの白戸太朗氏(スポーツナビゲーター・アスロニア代表)で開催された。

内容について詳しくは、当会ホームページの下記リンクを参照されたい。

[http://www.bpaj.or.jp/report/25-2seminar\\_houkoku25218.pdf](http://www.bpaj.or.jp/report/25-2seminar_houkoku25218.pdf)

また本稿作成に際して、当センター所蔵図書から文献を探していた中で、元実業団自転車競技連盟副理事長・南昌宏氏が自費出版され当センターに寄贈して頂いた『国際ロード/ツアー・オブ・ジャパン 30 年の記録』を再発見した。この場をお借りして、南氏の労作をご紹介したい。

現在の当会で、1982 年の第 1 回国際ロードレース大会から自ら体験しているのは、常務理事の渋谷良二のみである。南氏の著作と共に、温故知新で尋ねてみたいと考えている。



ツアー・オブ・ジャパン参加実績 (単位)

年	種別	大会	種別	大会	種別	大会	種別	大会	種別	大会
1982	1	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1983	2	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1984	3	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1985	4	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1986	5	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1987	6	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1988	7	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1989	8	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1990	9	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1991	10	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1992	11	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1993	12	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1994	13	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1995	14	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人

2004年 7月 2日 浅田 顕氏 (アサダケン)

2005年 7月 2日 浅田 顕氏 (アサダケン)

2006年 7月 2日 浅田 顕氏 (アサダケン)

国際サイクルロード参加実績 (単位)

年	種別	大会	大会	種別	大会	大会	種別	大会
1982	1	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1983	2	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1984	3	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1985	4	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1986	5	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1987	6	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1988	7	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1989	8	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1990	9	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1991	10	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1992	11	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1993	12	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1994	13	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人
1995	14	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人



☆ツアー・オブ・ジャパン大会公式ホームページ <http://www.toj.co.jp/>

大会公式 HP より facebook と twitter もご利用頂き、出場選手や地元関係者・大会スタッフに温かいご声援を頂ければ幸いです。

以上